



スカパーJSAT 宇宙事業 IR DAY 2025

# 宇宙事業の重点戦略

スカパーJSAT株式会社 執行役員  
宇宙事業部門 宇宙ソリューション事業本部長  
山下 照夫

## 宇宙事業のありたい姿

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し、超スマート社会の実現に貢献する。

## 重点戦略

### ① 「GEO」から「Multi-Orbit」へ

SDS2機を軸に通信需要に応え、Universal NTNにより新市場開拓

### ② 「衛星オペレーター」から「宇宙ソリューションプロバイダー」へ

アセットを活かした新規事業と積極的な資本投下と協業により、「通信」に加え「非通信」を拡大

## 成長目標

- 基盤事業の収益性強化と新領域事業を展開
- 2030年目標 セグメント利益：210億円

## 注力領域の拡大

- 安全保障
- スペースインテリジェンス
- 衛星運用受託・地上局サービス
- Beyond 5G/6G

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し、超スマート社会の実現に貢献する



# 重点戦略①：「GEO」から「Multi-Orbit」へ

## 宇宙空間及び成層圏からユニバーサルな多層的通信環境を実現

- エリア、容量・速度など多様な要求に応えるBeyond 5G/6Gの通信基盤
- HAPSの事業化

### 未来社会（2035年）

サイバー空間でAIが情報処理

現実空間のデータ化加速

**注目**

必要情報が誰でも自然に得られる

地域格差なくどこでもつながる

### Universal NTN

静止軌道衛星 × 非静止軌道衛星 × HAPS  
アプリケーションに応じた最適な通信インフラを提供

**GEO**  
静止軌道衛星

**non-GEO**  
非静止軌道衛星

**HAPS**  
高高度プラットフォーム

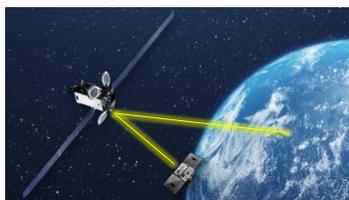
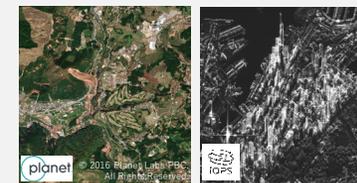
## 地球観測（EO）衛星など宇宙インフラを基盤としたスペースインテリジェンス

- 主力の光学衛星、SAR画像に加え、電波、Hyperspectralなど多彩なデータを宇宙で収集
- 静止衛星経由準リアルタイムに光伝送。将来的敵に宇宙における大容量コンピューティング基盤を構築
- 地上局で観測データ・画像を受信し、顧客ニーズに最適化した上でサービスを提供



### 地球観測衛星（LEO）

- データ・画像取得



### 光データリレー衛星（GEO）

- 大容量・準リアルタイムデータ伝送
- 軌道上コンピューティング



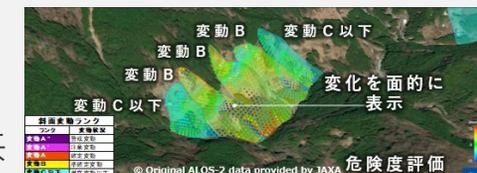
### 地上局

- データ・画像受信



### 付加価値提供

- データ・画像提供
- 解析・アプリケーション提供



## 基盤事業の収益性強化

## 新領域事業の展開

非  
通  
信

スペースインテリジェンス事業の拡大

安全保障ソリューション強化(SSA、QKD等)

衛星運用受託・地上局サービスの拡大

通  
信

Universal NTN(5G NTN、UX・CX向上)

HAPS

光データリレー

グローバル・モバイル分野の強化(航空機向け回線提供拡大、アライアンス強化)

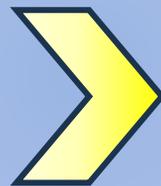
衛星フリートの最適化

## 成長目標②：数値目標

通信関連事業で安定的な収益利益を確保、EO含む「非通信」が成長ドライバー

2024年度見込み

セグメント利益：151億円



2030年度目標

セグメント利益：210億円

安全保障領域の拡大

営業収益  
(国内・海外)

FY2030目標  
約150億円

FY2024見込み  
約90億円

スペースインテリジェンス事業の拡大

営業収益  
(官公庁・民間)

FY2030目標  
約230億円

FY2024見込み  
約40億円

# 注力領域毎のフォーカス分野と市場環境

## 2030年目標達成に向け、成長見込みの高い領域に注力

フォーカス分野	事業領域	市場動向	競争優位性	売上目標 (FY2030)	成長見込
安全保障領域 	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信サービス (GEO、Non-GEO)</li> <li>衛星コンステレーション</li> <li>画像販売・付加価値サービス</li> <li>SSA (宇宙状況把握)</li> <li>QKD</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇宙安全保障能力の強化の加速、関連予算増加</li> <li>政府による民間連携の推進</li> <li>日米宇宙協力の強化</li> <li>地政学リスクの高まりによる需要増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30年以上の官公庁との取引実績</li> <li>特定メーカー等に依存しない国内外最先端技術の提供可能体制</li> </ul>	約150億円	
スペース インテリジェンス 	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛星コンステレーション</li> <li>画像販売・付加価値サービス</li> <li>宇宙DC</li> <li>衛星・地上管制受託</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災・減災分野の需要増 (インフラ老朽化、大規模自然災害)</li> <li>民間に対し官公庁需要の先行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界最高峰の技術を誇る観測事業者とのパートナーシップ</li> <li>自社開発アルゴリズム、UX</li> </ul>	約230億円	
衛星運用受託 地上局サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛星・地上管制受託</li> <li>地上局サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LEO事業者/サービス増加に伴う需要増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の管制拠点</li> <li>長年の実績・ノウハウを生かした宇宙コンサルサービス</li> </ul>	—	
Beyond 5G/6G	<ul style="list-style-type: none"> <li>Universal NTN (GEO、Non-GEO、HAPS)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旺盛な通信需要の継続</li> <li>新ユースケース増加による需要増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NTTとのパートナーシップ</li> <li>宇宙システム調達・運用の技術・ノウハウ</li> </ul>	—	

# 【参考】現在の事業領域・サービス例

## ①通信関連事業

**通信サービス**

GEO通信サービス（17機衛星フリート）  
Non-GEO通信サービス（Starlink販売等）  
Universal NTN

**衛星・地上管制受託**

政府・公的機関保有GEO衛星運用  
QPS研究所衛星運用

**地上局サービス**

JAXA様向け近地球追跡ネットワークサービス

## ②スペースインテリジェンス事業

**衛星画像販売**

光学（Planet Labs.、BlackSky）  
SAR（QPS研究所）取り扱い

**データインテリジェンスサービス**

LIANAサービス  
アプリケーション開発 等

**衛星コンステレーション事業**

光学地球観測10機コンステレーション保有・運用

## ③開拓領域

**HAPS、宇宙DC**  
(Space Compass)

**宇宙デブリ除去**  
(Orbital lasers)

**SSA**  
(宇宙状況把握)

宇宙設置型光学望遠鏡  
(JAXA様ETS-9相乗りペイロード)

**QKD**

**月通信事業**

STARTUP投資/パートナーシップ・協業



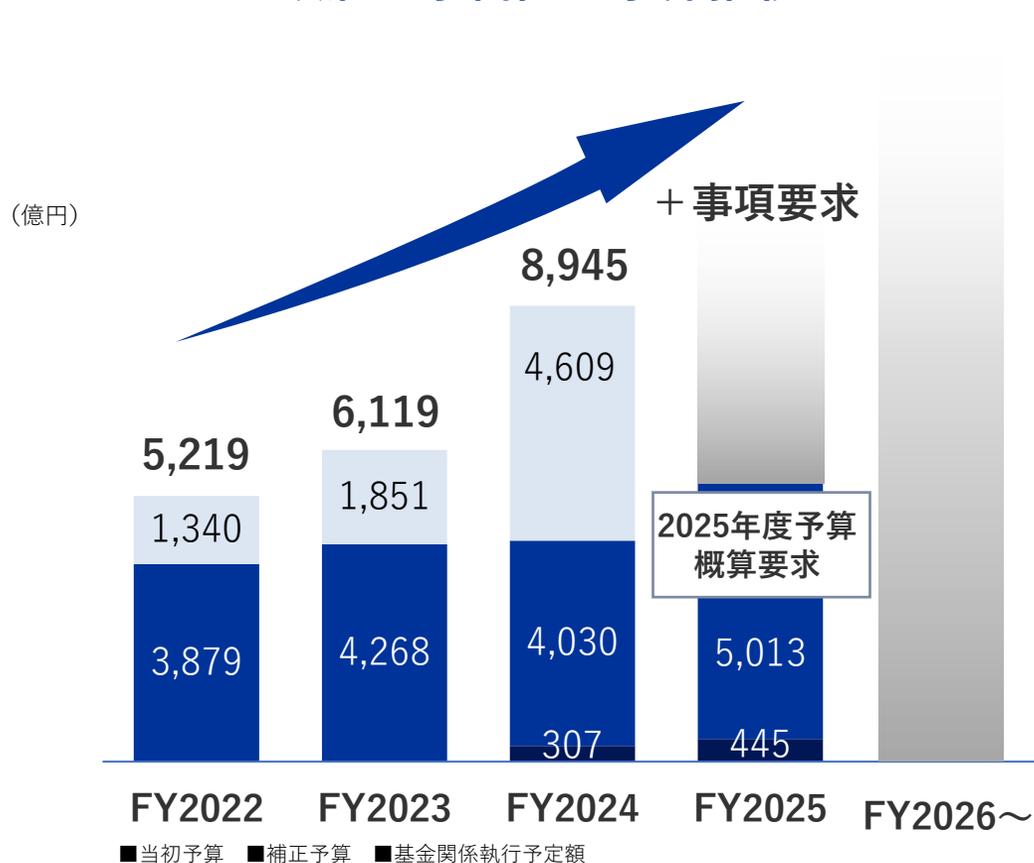
スカパーJSAT 宇宙事業 IR DAY 2025

# 安全保障領域における事業拡大 ～通信×非通信～

スカパーJSAT株式会社 執行役員  
宇宙事業部門 宇宙安全保障事業本部長  
石井 満

## 政府の宇宙関連予算は増加し、事業機会が拡大

### 政府の宇宙関連予算推移



### 主な宇宙関連予算項目 (FY2025)

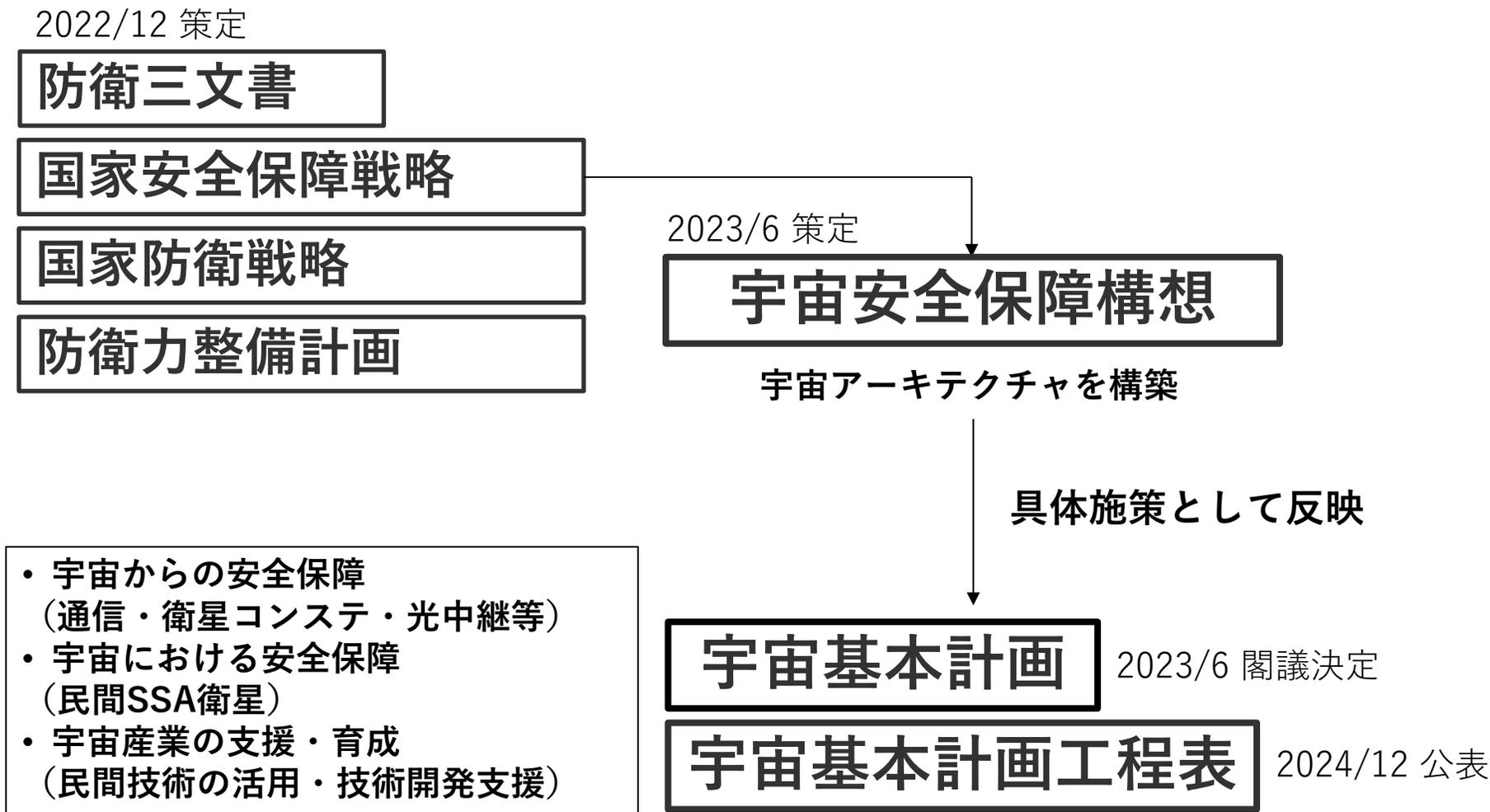
※一部抜粋、金額は令和7年度予算概算要求額を記載

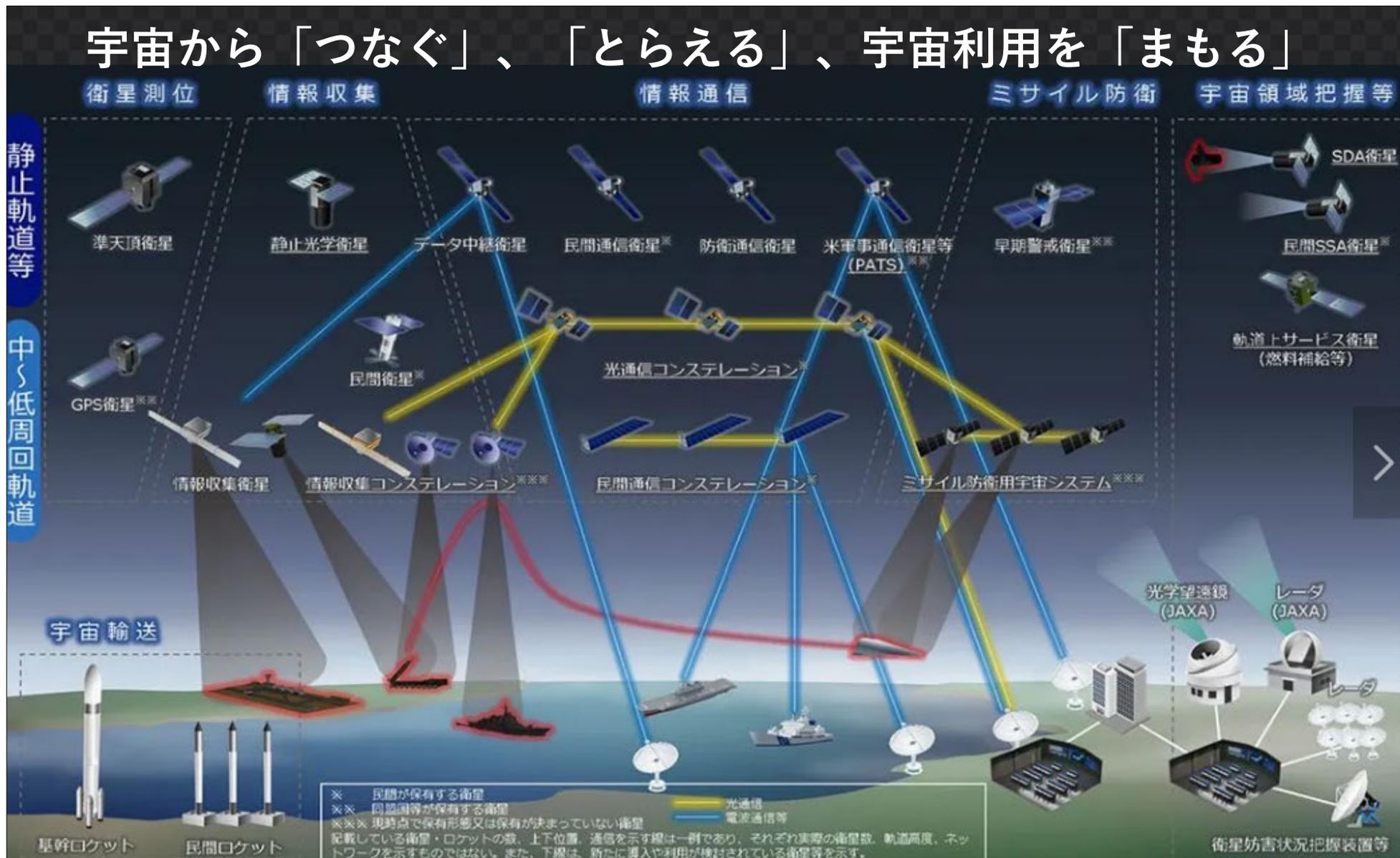
- **内閣官房 742億円**
  - ✓ 情報収集衛星の開発・運用 (742億円)
- **文部科学省 2,014億円**
  - ✓ アルテミス計画に向けた研究開発等 (370億円)
- **内閣府 306億円**
- **防衛省 1,372億円**
  - ✓ 衛星コンステレーションの構築
  - ✓ 次期防衛通信衛星等の整備
  - ✓ 次世代防衛技術実証衛星の開発
  - ✓ 画像解析用データの取得 (255億円)

**宇宙関連の防衛費  
5年間総額 1兆円  
(2023年度~2027年度)**

出典：FY2025予算概算要求までのデータは内閣府「令和6年度当初予算案および令和5年度補正予算における宇宙関連予算について」  
同「令和7年度概算要求における宇宙関連予算について」から転記して当社にて作図 <<https://www8.cao.go.jp/space/budget/yosan.html>>

## 宇宙における安全保障の課題や政策を具体化し、今後10年間の取り組みを明確化





出典: 2023/6/13 宇宙開発戦略本部<<https://www8.cao.go.jp/space/decision/kettei.html>>

## 2025年1月「宇宙安全保障事業本部」を組成 従来の通信回線提供等の拡充に加え、非通信分野での拡大を目指す

### 【通信分野】

- 陸・海・空すべての領域に通信回線を提供
- UAV\*1向け衛星通信の利用可能性への対応
- きらめき1,2,3号の運用
- きらめき2号後継機における貢献

### 【非通信分野】

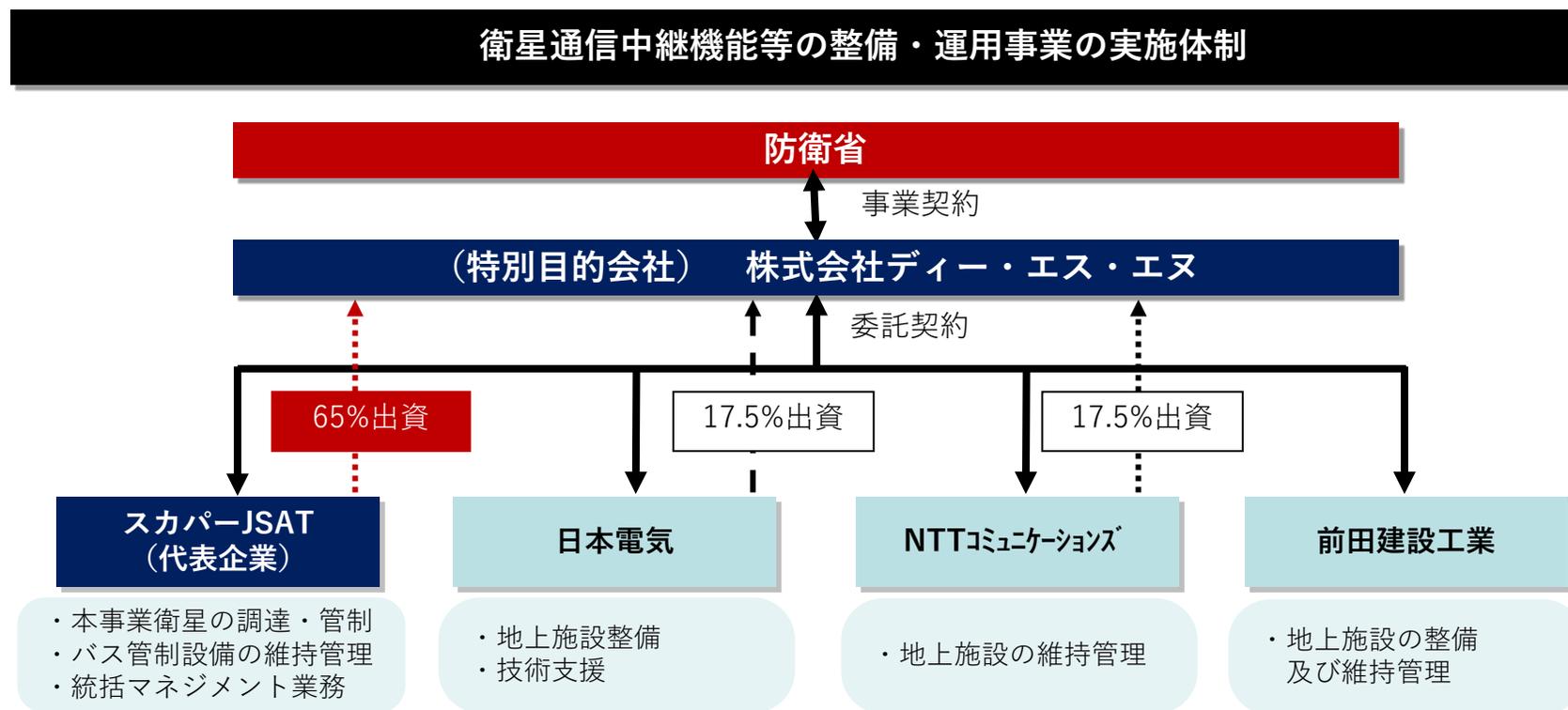
- LEO地球観測衛星コンステレーションの構築
- 宇宙状況把握（SSA\*2）サービスの開始
- 光データリレー
- 量子暗号鍵伝送サービス



\*1 UAV: Unmanned Aerial Vehicle（無人航空機） \*2 SSA: Space Situational Awareness

## 当社の取り組み② 通信分野：きらめき1・2・3号

- 代表企業として、防衛省PFI事業「Xバンド衛星通信中継機能等の整備・運営事業」を受託（2013年）
- きらめき衛星の調達・打ち上げ：1号機（2018年度）、2号機（2016年度）  
衛星の運用及び地上施設の維持管理等を実施（～2032年度末）
- きらめき3号については衛星の運用及び地上施設の維持管理等を実施



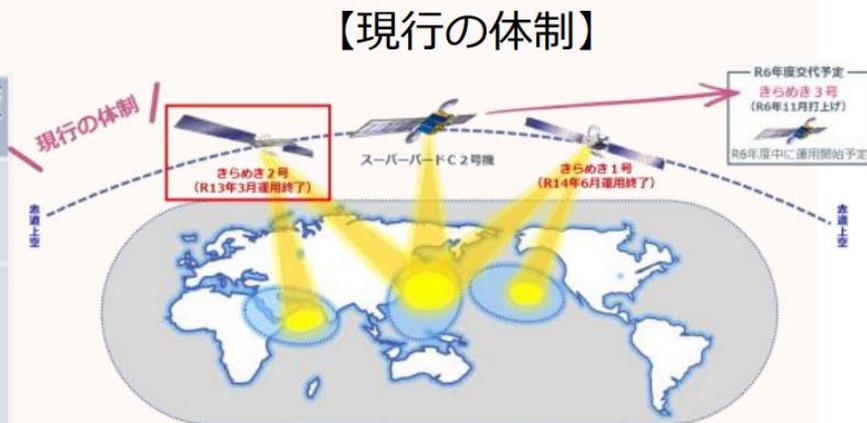
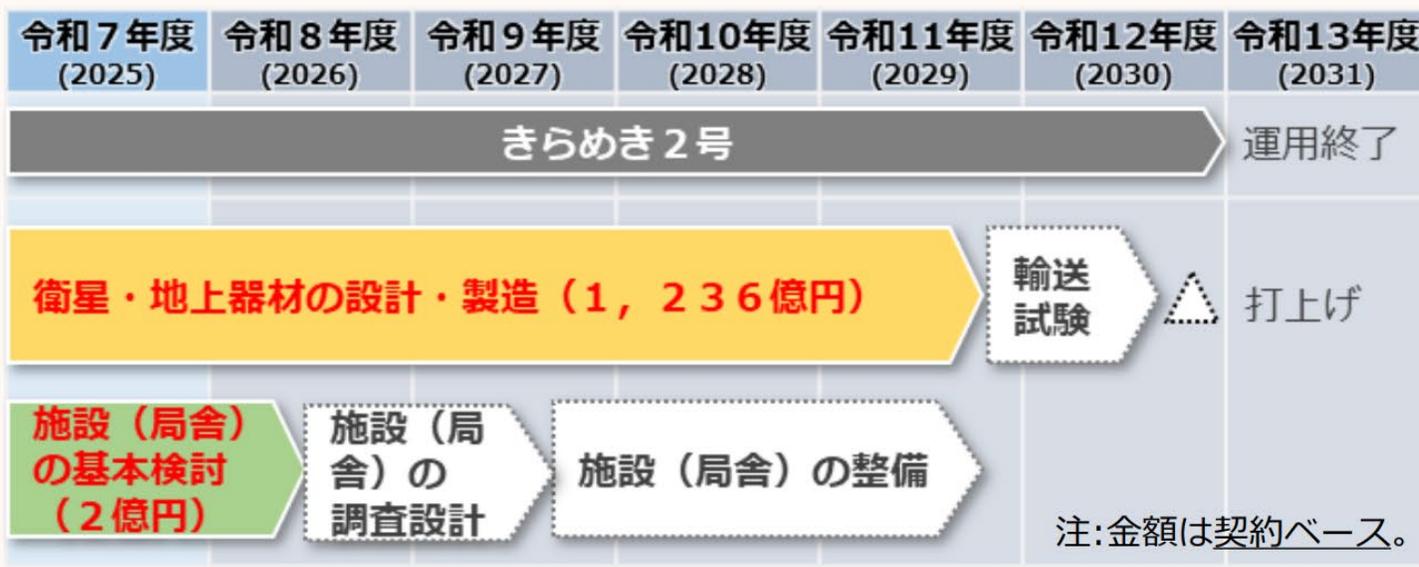
# 当社の取り組み② 通信分野：きらめき2号後継機

- 現在運用中の防衛通信衛星（きらめき2号）の後継機及び関連機材の整備（1,238億円）
- 既存の3機のXバンド通信衛星のPFIの代表会社として、積極的に貢献することを目指す

## ◆ 次期防衛通信衛星の整備

## 宇宙領域における防衛能力

- 現在運用中のXバンド防衛通信衛星(きらめき2号)の後継機として、通信能力等が向上された次期防衛通信衛星を整備



※令和7年度以降のスケジュールについては全て予定

出典：防衛力抜本的強化の進捗と予算－令和7年度概算要求の概要－(P7) <[https://www.mod.go.jp/j/budget/yosan\\_gaiyo/index.html](https://www.mod.go.jp/j/budget/yosan_gaiyo/index.html)>

# 当社の取り組み③ 非通信分野：量子暗号鍵配送

## 量子鍵配送 (QKD = Quantum Key Distribution)

- 理論上、いかなる能力を持った第三者（盗聴者）にも情報を漏らすことなく暗号鍵を2者間で共有する方法

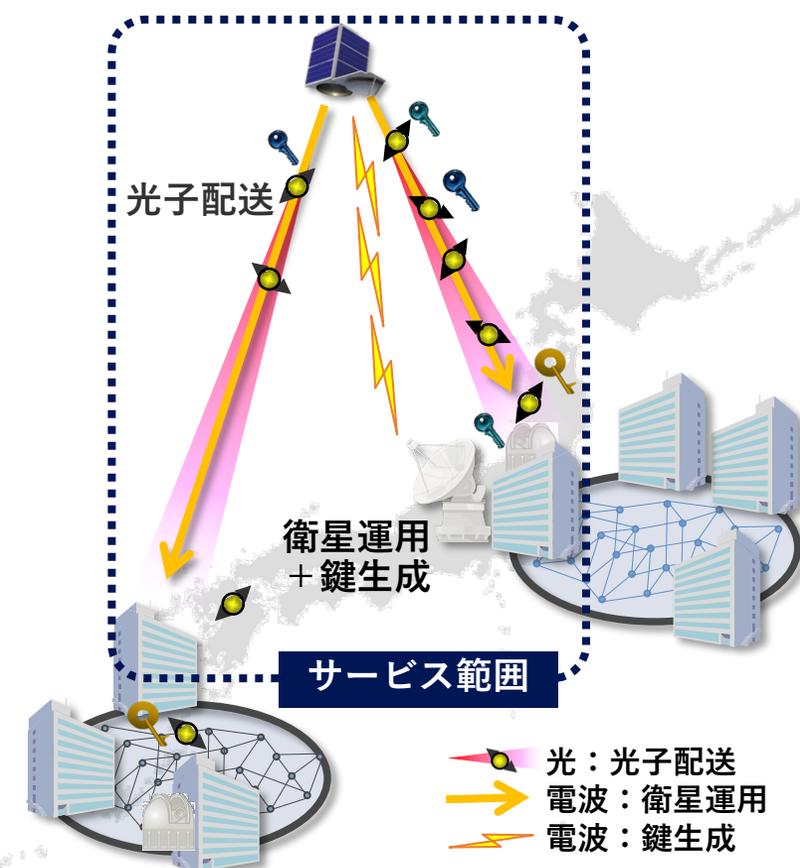
## 衛星量子鍵配送の特徴

- 光ファイバーケーブルと比較し、長距離（地球上のあらゆる地点）、移動体に対し鍵配送することが可能
- 国家安全保障や外交の分野において不可欠な重要情報の高秘匿通が可能になる。

### 日本におけるQKD関連の研究開発動向



### 衛星QKDのサービスイメージ





スカパーJSAT 宇宙事業 IR DAY 2025

# 地球観測ビジネスの今後の展開

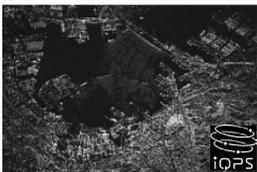
スカパーJSAT株式会社 宇宙事業部門  
宇宙安全保障事業本部 安全保障事業部長  
木村 勉

# はじめに. LEO衛星コンステレーションについて

当社事業に関わるLEO衛星コンステレーションは「地球観測」と「通信」  
低軌道に多数の人工衛星を配置し、地球全体をカバーする

どちらも  
LEO衛星  
コンステ  
レーション

地球  
観測

主なセンシング技術	特徴	プレイヤー
<b>光学</b> 	一般的な写真と同様、可視光線を使って観測する。	Planet、BlackSky、AXELSPACE、MAXAR、AIRBUSなど
<b>SAR</b> 	マイクロ波の反射を観測し地形を調べる。昼夜天候を問わず観測が可能。	iQPS、Synspective、ICEYE、Capella Space、UMBRAなど
<b>電波</b>	地上から発信される各種無線信号を捉え、信号の発信位置を特定する。	HawkEye 360、Spire、Aurora Insight、KLEOS SPACE、e-GEOSなど
<b>Hyperspectral</b> (ハイパースペクトル)	温室効果ガス、鉱物、植生などを詳細に特定できる。	Planet、GHGSat、Satellogic、Wyvernなど

通信

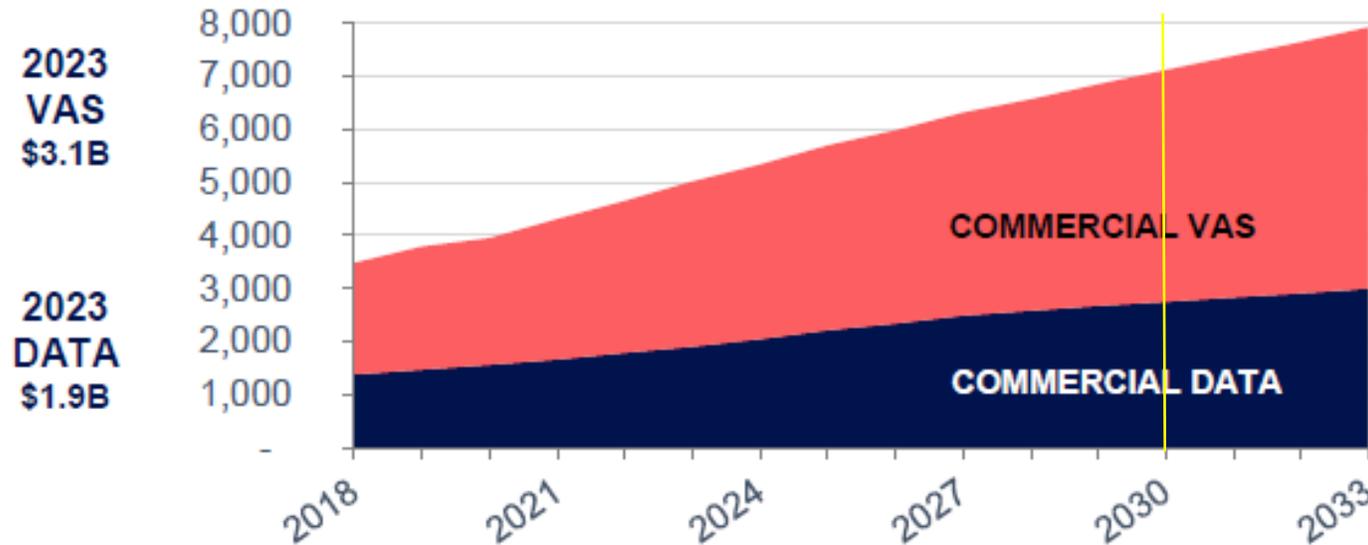
Starlink      Amazon Kuiper      OneWeb      LightSpeed

- 市場規模は約 1 兆円（2030年）に急成長
- 現在、安全保障関連の利用が約4割を占める

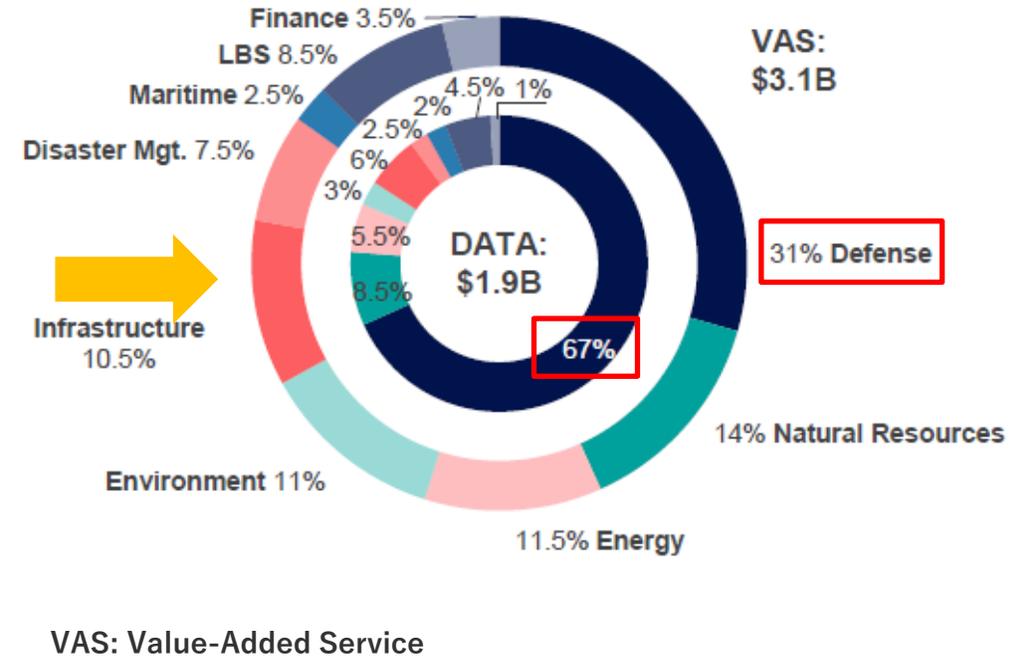
## 地球観測データ・付加価値サービス 市場規模推移

EO Market breakdown (in U.S. \$ billion)

Data & Services (2018–2033)



Data and VAS market: 2023

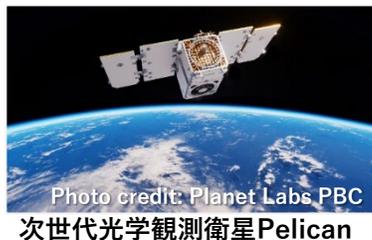
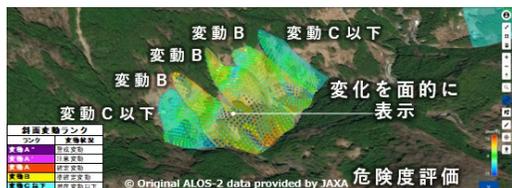


出所：Earth observation Data and Services Market ©2024 Euroconsult

光学観測衛星コンステレーション自社保有（2026年～）

さらなる事業成長を目指す

**LIANA サービス開始**  
(斜面・インフラモニタリングサービス)



**FY2024  
営業収益  
見込み  
約40億円**

**FY2030  
営業収益目標  
約230億円**

地上局の拡張



QPS研究所との  
業務提携・出資

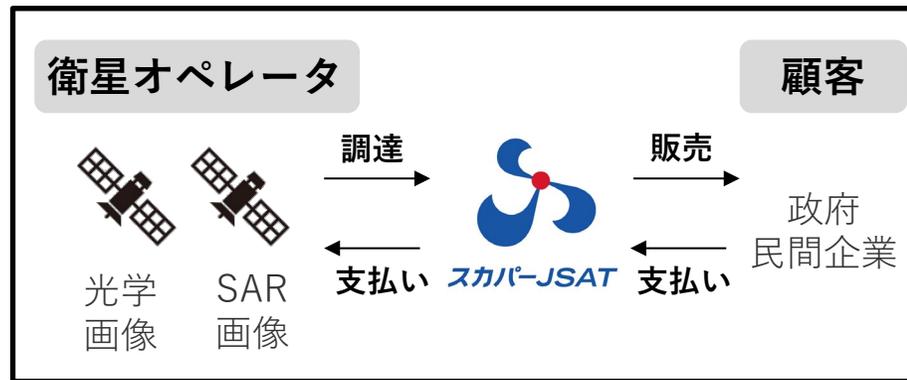
衛星画像の販売代理店

北海道ネットワーク管制センター



沖縄ネットワーク管制センター

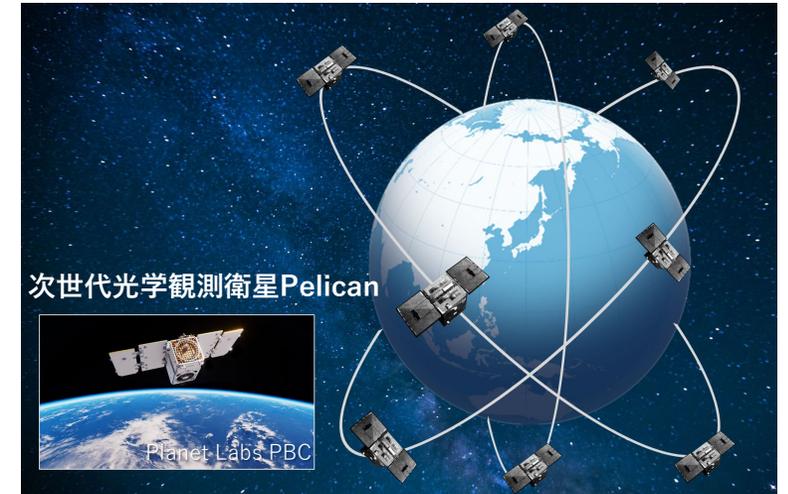
現在の販売スキーム



## 次世代光学観測衛星10機を調達、安全保障ニーズへの対応と民間市場開拓を加速

### <競争優位性>

- ① **優先撮像権の確保、データの著作権保有**  
国内の顧客ニーズに最適化したサービスを提供。
- ② **世界最高水準 30cm高解像度**  
米国Planet社との協業により、世界最先端の技術と日本市場向けのカスタマイズを両立。
- ③ **高頻度データ取得**  
1日あたり複数回観測。災害リスクの高い地域等に迅速なデータ提供可。



### <スケジュール (予定) >



## 宇宙安全保障に当社としても積極的に貢献していく

年度	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 以降
1 宇宙安全保障のための宇宙システム利用の抜本的拡大 ①	衛星コンステレーション・情報収集衛星等による情報収集体制の強化[内閣官房、防衛省等]										
	民間SAR衛星コンステレーションの利用実証 [内閣府等]										
	目標の探知・追尾能力の獲得を目的とした衛星コンステレーションの構築[防衛省]										
	衛星コンステレーションの構築 ↑ 本格的運用開始										
	広帯域電磁波受信技術の研究[防衛省]										
	民間の小型衛星コンステレーションを用いた多頻度での情報収集の推進[防衛省]										
	防衛分野における準天頂衛星システムの利用促進[防衛省]										
	安全保障に係る衛星リモートセンシングデータの利活用等[内閣官房、内閣府、外務省、防衛省等]										
	共通キー技術の先行実証[防衛省] ▲ ▲ 打上げ 打上げ										
	戦術AI実証衛星の開発・実証[防衛省] ▲ 打上げ										
	低軌道衛星間光通信、軌道上自律制御等の重要技術の獲得に向けた研究開発 [内閣府、総務省、経済産業省等]										
	宇宙システム全体の機能保証強化の方策に関する検討及び必要な処置(工程表2-①) [内閣官房、内閣府、総務省、外務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、気象庁、環境省、防衛省]										
(参考)国家防衛戦略・防衛力整備計画											

出典：宇宙基本計画工程表 P2 ([https://www8.cao.go.jp/space/plan/plan2/kaitei\\_fy06/kaitei\\_fy0612.pdf](https://www8.cao.go.jp/space/plan/plan2/kaitei_fy06/kaitei_fy0612.pdf))